

# 令和6年能登半島地震における 輪島市の対応等



石川県輪島市長 坂口 茂

## 1 はじめに

令和6年、穏やかに新年を迎えた元日の午後4時10分、突如として能登地方を震源とするマグニチュード7.6、最大震度7を観測する大地震が発生いたしました。改めてお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、被害を受けた皆様に心からお見舞い申し上げます。

また、未だ行方不明となっている3名の方が一日も早く発見されることを願っております。

本稿では、震度6強を観測した平成19年能登半島地震とは桁違いの被害となった本市の被災状況や地震後の対応、今後の復興などを紹介いたします。

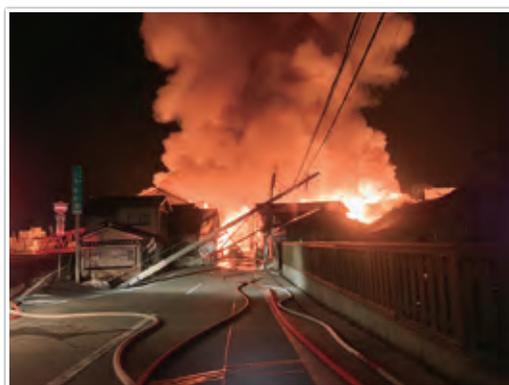
## 2 被災状況等

地震発生後、直ちに災害対策本部を設置しましたが、被害は市内全域で甚大となり各地で山腹崩壊や土砂災害、道路の寸断が発生、

庁舎に参集し災害対応できた職員は約40名（約2割）でした。限られた人数の中、庁舎内では多くの電話（市外からの安否確認等と市内はほぼ不通状態が続いた）と情報で混乱し、更に大津波警報が発表され多くの方が指定避難所や公共施設等（最大で1万3,600人超）に避難し、その他車での避難者も多かったことから、職員はその対応や物資の配送等に追われました。また、広い範囲で停電と通信障害が起こったこともあり、被災状況の把握は非常に困難な状況でありました。

また、本市の観光名所輪島朝市において火災が発生、道路寸断や多数の倒壊家屋があり、断水により消火栓は使用できず、更に大津波警報が発表されたことなどから消火活動は困難を極め、約4万9,000㎡、約250棟もの建物が焼失しました。

令和6年9月9日現在、人的被害は666名（うち死者が150名（災害関連死50名含む）、重症者213名、軽症者303名）と多くの方が犠牲となり、住家被害は、1万395棟（うち全



朝市周辺火災（あさいち交番付近）



朝市周辺火災（鎮火後）



浜田町地内（国道249号線）



鳳至町地内

壊2,286棟、半壊以上3,873棟、準半壊以下4,236棟）、非住家は半壊以上が1万1,279棟と膨大な数の建物に被害が生じました。

ライフラインの被害は、電気、上下水道において、市内全域となったほか、道路の通行止め等が多数生じ、なかでも県都金沢へ通じるのと里山海道も、複数の土砂の崩落により通行止めとなり、消防、警察、自衛隊の応援が駆け付けられない状況となりました。

### 3 地震後の対応

人命救助を第一に、被災者対応として物資配布、孤立集落の解消、避難所の運営などを行ってきました。ただし、全ての避難所等で収容能力を超える避難者となり、密な状態となり冬季と重なったことから、インフルエンザ、コロナウイルス等の感染症が発生、このため災害関連死を防ぐため市外への2次避難を呼び掛けました。

ライフラインの応急復旧については、水道では通水しても宅内配管で漏水している箇所が多く、修繕業者の手配が困難な状況が続き、作業員の宿泊場所の不足などにより早期復旧が困難な状況にありました。

対口支援チームにより全国からの応援職員によって、早期の建物被害認定調査及び罹災証明書の発行に努め、倒壊家屋の公費解体の実施についても国、石川県及び関係機関の協力もいただき進展している状況にあります。

### 4 今後の復興

3月に「もとよりもっと 新・輪島」をスローガンに、「被災者の再建支援」「地域を支える生業の再興」「新たなまちへの再生」の三つの柱とした復興に向けた基本方針を作成し、復興の一步を踏み出しました。

また、震災からの早期復旧や創造的復興の指針となる復興まちづくり計画の策定を進めており、朝市組合や地元商店街、輪島塗関係者などの方々の構想等もできる限り計画に反映していきたいと考えています。

この震災によるピンチをチャンスに変え、これまでできなかったことに失敗を恐れず挑戦する取り組みに対し、後押ししていきたいと考えています。震災前よりもっと魅力的で、豊かで安心して暮らせる輪島市となるよう取り組んでいきます。

### 5 おわりに

発災からこれまでの間、国、全国の自治体、消防、警察などの関係機関や様々な関係団体、ボランティア等多くのご支援をいただき、また、全国から義援金や励ましの言葉もいただき、改めて心から感謝を申し上げます。これらのご支援がなければ今日を迎えることはできませんでした。

本格的な復旧復興はまさにこれからであり、長い時間が掛かりますが、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。